

各 位

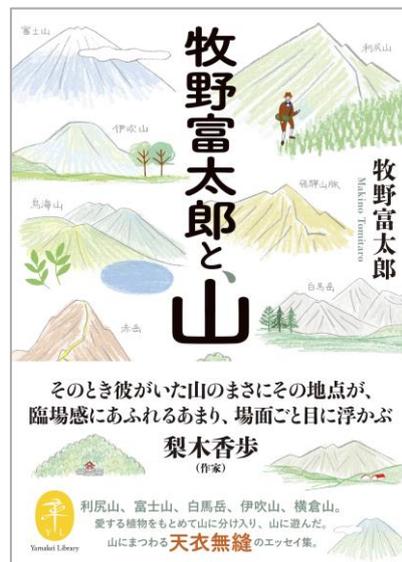
2023年3月1日

株式会社 山と溪谷社

<https://www.yamakei.co.jp/>

読むと、牧野富太郎と一緒に山を歩きたくなるエッセイ集発刊！

インプレスグループで山岳・自然分野のメディア事業を手がける株式会社山と溪谷社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：二宮宏文）は、ヤマケイ文庫『牧野富太郎と、山』（牧野富太郎／著）を刊行いたしました。



白馬岳でお花畑を見て心震わし、
恐山でキノコを発見して歌い踊り、
天下の富士山の美容に物申す――。

日本の植物学の父・牧野富太郎氏は植物を観察・採集するために日本各地の山々を訪れ、そのときの様子をエッセイに残しました。幼少期の佐川の山での思い出を綴る「狐のへダマ」、植物を追い求めて危うく遭難しかけた「利尻山とその植物」、日本各地の高山植物の魅力を存分に語る「夢のように美しい高山植物」など、山と植物にまつわる35のエッセイを選出しました。

エッセイに登場する山のデータと口絵のマップ付き。牧野が登った山を訪ねるガイドとしても楽しめます。

解説は、梨木香歩さんの書きおろしです。

「そのとき彼がいた山のまさにその地点が、臨場感にあふれるあまり、場面ごと目に浮かぶ。
野山を歩む牧野に、同行したかったと思うのは、私だけではあるまい」

もくじ

はじめに 5

なぜ花は匂うか？ 10

▲北海道から東北

利尻山とその植物（利尻山） 16

シリベン山をなぜ後方羊蹄山と書いたか（羊蹄山） 38

ニギリタケ（琴山） 43

秋田ブキ談義（秋田の山野） 48

▲関東甲信越から中部

山草の分布（栗駒山、鳥海山、戸隠山、駒ヶ岳など） 54

長威の一喝（奥連） 64

アカスマアヤメ（日光山） 67

アケビ（奥波山、高尾山） 69

日本に秋海棠の自生はない（清浄山、那智山） 77

用便の功名（箱根山） 81

箱根の植物（箱根山） 84

漫談・火山をめぐ（富士山、小室山） 103

富士登山と植物（富士山） 111

越中立山のハギ（立山） 121

二、三の高山植物について話す（金精峰、立山、白山、御嶽山など） 123

山草の採集（白鳥岳、八ヶ岳） 137

夢のように美しい高山植物（岩手山、御嶽山、立山、八ヶ岳など） 142

ナンジャモンジャの木（神崎巻） 150

馬糞は美味な食餌（飛騨山脈） 160

萌え出づる春の若草（日本の山野） 164

▲近畿から中四国、九州

東京への初旅（伊吹山） 178

「草木図説」のサワアザミとマアザミ（伊吹山） 183

アセビ（六甲山） 188

紀州高野山の蛇柳（高野山） 190

石吊り蜘蛛（三段峯） 196

万年芝（三段峯） 200

地獄虫（佐川の山野） 207

狐のヘダマ（佐川の山野） 212

火の玉を見たこと（佐川の山野） 216

いわゆる京丸の牡丹（横倉山） 219

シンラン（土佐の奥山） 224

椋に寄せて（奥の土居） 227

豊後に梅の野生地を訪う（井ノ内谷） 232

植物と心中する男 237

私塾人・牧野富太郎の歩み方 梨木香歩 243

狐のへだま

幼少の頃、私は郷里佐川の附近の山へ、よく山遊びにいった。ある時、うす暗いシイの林の中をかさかさとして落葉を踏んで歩いてみると、可笑しなものが目についた。フットボールほどある白い丸い玉が、落葉の間から頭を出していたのだ。私は「何だろう」と思って恐る恐るこれに近寄っていった。しかし、別に動きだしたりもせず、じっとしている。

「はあ、これはキノコの化物だな」と私は直感した。そして、この白い大きな玉を手で撫でてみた。すると、これはその肌ざわりからいって、まさにキノコであることが判った。「ずいぶん変わったキノコもあるんだな、こりゃ驚いた」と、私はすっかりびっくりしてしまった。

家に帰ってから、山で見たキノコの化物のことを祖母に話すと、祖母は「そんな妙なキノコがあつつか？」と不思議そうにいった。これを聞いていた下女が、
「それや、キツネノヘダマとちがいますかね」といったので私は、びっくりして下女の顔を見た。すると下女は、「そりゃ、キツネノヘダマにかりません。うちの方じゃ、テンゲノヘダマともいいますよ」といった。

この下女は、いろいろな草やキノコの名を知っていて、私はたびたびへこまされたものである。
ある時、町はずれの小川から採ってきた水草を庭の鉢に浮かしておいたが、私はそれがどんな名の水草か知らなかった。すると、この下女が「その草、ヒルムシロとかわりませんね」といったので私はびっくりした。その後、高知で買った『救荒本草』という本を見たら、「眼子菜」という植物がのって居り、これにヒルムシロという名がでていた。まさに、下女のいった通りだった。

さて、私が山で見たキツネノヘダマは、狐の尻玉の意で、妙な名である。天狗の尻玉ともいう。これは一つのキノコであつて、尻玉といっても別に、尻のよう

●内容

なぜ花は匂うか？

▲ 北海道から東北

利尻山とその植物〔利尻山〕

シリベシ山をなぜ後方羊蹄山と書いたか〔羊蹄山〕

ニギリタケ〔恐山〕

秋田ブキ談義〔秋田の山野〕

▲ 関東甲信越から中部

山草の分布〔栗駒山、鳥海山、戸隠山、駒ヶ岳など〕

長蔵の一喝〔尾瀬〕

アカヌマアヤメ〔日光山〕

アケビ〔筑波山、高尾山〕

日本に秋海棠の自生はない〔清澄山、那智山〕

用便の功名〔箱根山〕

箱根の植物〔箱根山〕

漫談・火山を割く〔富士山、小室山〕

富士登山と植物〔富士山〕

越中立山のハギ〔立山〕

二、三の高山植物について話す〔金精峠、立山、白山、御嶽山など〕

山草の採集〔白馬岳、八ヶ岳〕

夢のように美しい高山植物〔岩手山、御嶽山、立山、八ヶ岳など〕
ナンジャモンジャの木〔神崎森〕
馬糞蕈は美味しい食菌〔飛騨山脈〕
萌え出づる春の若草〔日本の山野〕

▲ 近畿から中四国、九州

東京への初旅〔伊吹山〕
『草木図説』のサワアザミとマアザミ〔伊吹山〕
アセビ〔六甲山〕
紀州高野山の蛇柳〔高野山〕
石吊り蜘蛛〔三段峡〕
万年芝〔三段峡〕
地獄虫〔佐川の山野〕
狐のへだま〔佐川の山野〕
火の玉を見たこと〔佐川の山野〕
いわゆる京丸の牡丹〔横倉山〕
シンラン〔土佐の奥山〕
桜に寄せて〔奥の土居〕
豊後に梅の野生地を訪う〔井ノ内谷〕

植物と心中する男

私塾人・牧野富太郎の歩み方 梨木香歩

●著者略歴

牧野富太郎（まきの・とみたろう）

1862～1957年。植物学者。高知県高岡郡佐川町の酒造家兼雑貨商に生まれる。幼い頃より自宅近くの山々に遊んで植物に親しみ、ほぼ独学で植物の知識を身につける。1884（明治17）年に東京大学理学部植物学教室へ出入りするようになり、1912（同45）年には同大学講師となる。『牧野日本植物図鑑』の刊行、その他多くの「植物随筆」を執筆しながら研究と植物知識の普及に努めた。新種や新品種など命名した植物は1500種以上にのぼる。

●書誌データ

書名：ヤマケイ文庫『牧野富太郎と、山』

著者：牧野富太郎

発売日：2023年3月3日

定価：990円（本体900円＋税10%）

272ページ（口絵付き）／文庫判／1色刷

<https://www.yamakei.co.jp/products/2822049630.html>

【山と溪谷社】 <https://www.yamakei.co.jp/>

1930年創業。月刊誌『山と溪谷』を中心に、国内外で山岳・自然科学・アウトドア等の分野で出版活

動を展開。

さらに、自然、環境、ライフスタイル、健康の分野で多くの出版物を展開しています。

【インプレスグループ】 <https://www.impressholdings.com/>

株式会社インプレスホールディングス（本社：東京都千代田区、代表取締役：松本大輔、証券コード：東証スタンダード市場 9479）を持株会社とするメディアグループ。「IT」「音楽」「デザイン」「山岳・自然」「航空・鉄道」「モバイルサービス」「学術・理工学」を主要テーマに専門性の高いメディア&サービスおよびソリューション事業を展開しています。さらに、コンテンツビジネスのプラットフォーム開発・運営も手がけています。

以上

【本件に関するお問合せ先】

株式会社山と溪谷社 担当：綿

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-105 神保町三井ビルディング

TEL03-6744-1900 E-mail: info@yamakei.co.jp

<https://www.yamakei.co.jp/>